

経営戦略（第4期中期経営計画）の見直し（案）

1 今後の課題と取組

(1) 工業用水道事業及び水道事業

- 工業用水道においては、戦略策定後、岳南地区で大口ユーザーの利用廃止により、富士川工水の単独運営が困難となったことから、東駿工水との一体運用に向けた取り組みを行っているほか、水道事業では、榛南地域における最適化を目指し、榛南水道と大井川広域水道企業団との統合に向けた協議を行っている。これらの効率運用・統合等においては、脱炭素を推進するために使用電力削減等を図る必要がある。
- 費用削減と収益確保が喫緊の課題であり、管路・施設の更新費用の削減に向けた管路の2重化の試行等、運営コスト削減のための包括・長期契約による動力費の削減や事業債による資金運用等に取り組んでいる。
- 今後も、施設の最適化と、持続可能な給水収益水準の維持のための抜本改革とイノベーションマネジメントを推進する必要がある。

(2) 地域振興整備事業

- コロナ後の景気回復期における用地需要に迅速に応えるため、「富士山麓フロンティアパーク 小山」の完売により回収した資金と蓄積したノウハウを活用し、新たな造成方式である「セミ・レディーメード」方式により企業誘致に向けて造成を加速させていく。

2 見直し方針（案）

こうした状況を踏まえ、以下の方針により、経営戦略（第4期中期経営計画）の見直しを行う。

- 工業用水道事業及び水道事業については、将来にわたり廉価で安全安心な用水を安定供給するため、抜本的改革による管路・設備等の更新費用の抑制と、イノベーションマネジメントによる収支の改善により、経営基盤の強化を図る。
- 地域振興整備事業については、
 - ・ これまでの造成事業のノウハウや成果を生かすとともに、セミ・レディーメード方式による「戦略的な候補地選定と企業局資金を活用した先行用地造成」により「経済効果の高い工業用地の造成」と「働いて住んで幸せな“まちづくり”」に取り組む。